

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 HIV 患者における HBV 感染状況と予後に関する検討』

研究機関名 東邦大学医療センター 大森病院

研究責任者 臨床検査医学講座 科 職位・氏名 准教授・吉澤 定子

### 【研究の目的】

HIV 感染症が HB 肝炎ウイルス(HBV)と共に感染した場合、HBV 感染症の病期進展は速やかとなり、肝硬変、肝がんへの進展が早いことが判明しています。世界的には HIV/HBV の共感染者は HIV 感染者の 10%に存在すると推定されており、HIV 患者において HBV 感染状況を早期に把握し、治療・予防を行うことは重要です。東邦大学医療センター大森病院はエイズブロック拠点病院の一つであり、総合診療急病センター感染症科では以前より HIV 診療を行っています。本研究では、当院における HIV 患者さんの HBV 罹患状況を調査し、HBV に対する治療状況と予後の関連性、さらに HBV ワクチン接種状況について検討を加えます。本研究を遂行することにより、HIV 患者における HBV 感染の病態に関して理解を深め、治療方針を計画する上で有効な情報となる可能性があり、今後の HIV 診療に貢献することが期待されます。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者: 2004 年 4 月～2021 年 5 月、及び倫理委員会承認後以降 2024 年 5 月までに東邦大

学医療センター大森病院総合診療急病センター感染症科を通院された HIV 陽性患者の方

方 法: 診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

### 【研究に用いられる試料・情報】

以下の項目について、経時的に診療録情報を後方視的に調査します。

①HIV 感染者における HB 抗原、HB 抗体陽性患者の割合

②HBc 抗体、HBs 抗体陽性、HBVDNA 陰性患者における HBV 治療薬(FTC/TAF(エムトリシタビン+テノホビル アラフェナミドフル酸塩)もしくはテノホビル・エムトリシタビン(TDF+FTC))使用率

③HBc 抗体、HBs 抗体陽性患者において上記 HBV 治療薬を用いていない患者における肝炎増悪の有無(肝機能異常及び HBV DNA の検出)

④HB 抗体陰性者におけるワクチン接種状況と抗体価の推移

### 【外部への試料・情報の提供】

本研究では外部に情報を提供することは予定していません。

### 【研究組織】

・研究責任者: 吉澤 定子(臨床データ解析、個人情報管理者)、准教授

・研究分担者: 佐藤高広(レジデント)・前田正(講師)・宮崎泰斗(講師); 臨床データ解析補助)

### 【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告す

ることがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 臨床検査医学講座

職位・氏名 準教授・吉澤 定子

電話 0337624151 内線 2396